

sports.yahoo.co.jp

4/17(日)隅田川で早慶レガッタ ドローンが迫る、泣ける「早慶戦」の世界 - スポーツナビ

早稲田大学競技スポーツセンター 2022年4月15日 17:00



チーム・協会

- [ツイートボタン](#)
- [シェアボタン](#)



【早慶レガッタ運営委員会】



毎年白熱の早慶戦。今年の軍配はどちらに？【早稲田大学漕艇部】

三大早慶戦(野球・ラグビー・ボート)の一つと言われ、117年の歴史を誇る第91回「早慶レガッタ(早慶対校競漕大会)」が4月17日(日)、東京・台東区の隅田川で開催されます。2020年度は新型コロナウイルスへの感染防止対策で中止となりましたが、2021年に2年ぶりに再会された伝統の一戦。2022年も熱い戦いが繰り広げられます。

ゴールとなる桜橋までの3,750メートルのコースを舞台に、速さを競うメインレース「対校エイト」など、多くのレースが行われます。過去の対戦成績は早稲田大学が47勝、慶應義塾大学が41勝、同着1回。

今年も感染防止のため、オンラインを通じて試合の様子がライブ中継されます。今回は高精度GPSによるレース艇情報の提供が行われるほか、2機のドローンを使った空撮によってさらに迫力満点な映像を送るとのことです。

是非、応援よろしくお願いします。

ライブ配信はこちら(※競技終了後は録画映像)

↓

https://www.cmstream.com/the_regatta/live_youtube/

エラーコード:1001100

ご利用の環境では映像を視聴できません。

映像視聴における推奨環境はこちらをご確認ください。



戦うのは、
ライバルと、
自分自身。

ある人は言う。「勝たなきゃ意味がない」
またある人は言う。「スポーツは勝ち負けじゃない」
正解は、どっちだ。

春の隅田川、3750メートルの長丁場で、
早慶両雄がプライドをぶつけ合う。
自分を信じ、仲間を信じ、いざ最高峰の戦いへ。
漕ぎ切った先に、
きっと答えが待っている。

隅田川に、春一番が吹き荒れる
第91回 早慶レガッタ

2022年4月17日(日) 隅田川 新大橋～桜橋間

【早慶レガッタ

運営委員会】

新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。

早慶レガッタは新入生の皆さんが体験できる初めての「早慶戦(早慶対抗戦)」となります。2年生以上で、まだ見たことがない学生も、必見の大会です。

早稲田大学の44部ある体育各部のほとんどが、毎年しのぎを削っている伝統の「早慶戦」。熱すぎる展開、盛り上がる応援。部員学生が悔し涙、嬉し涙を流す理由は何なのか？

早稲田大学の学生だからこそ経験できる、慶應義塾大学との切磋琢磨し合うライバル関係。皆さんと年の近い部員学生たちが真剣勝負に挑んでいる姿を見て、体感してみてください。

第91回大会では桜橋周辺への観戦・応援スペース、大型ビジョンは設置いたしません。コース沿道、橋上での観戦や応援は極力お控えいただき、インターネットによるライブ配信中継にての応援を是非お願い致します。当日のライブ配信は、早慶レガッタ公式HPよりご覧ください。



主将 中島 湧心
YUSHIN NAKAJIMA

学部 スポーツ科学部
出身校 八尾高校 (富山)
ポジション 漕手



女子主将 中尾 咲月
SATSUMI NAKAO

学部 スポーツ科学部
出身校 津高校 (三重)
ポジション 漕手

【早稲田大学漕艇部】

こんにちは。早稲田大学漕艇部主将・中島湧心(スポーツ科学部4年)、女子主将・中尾咲月(同4年)です。

4月17日(日)に、三大早慶戦の一つである「早慶レガッタ」が開催されます。

昨年度の大会では、花形種目の対校エイト3750mで、約14分にも及ぶ戦いの末、0.69秒という僅差で敗退し、3冠獲得を逃しました。

今回大会は、昨年の雪辱を果たすべく、全員で勝利を掴んでみせます。

皆様にレースを楽しんでいただけるよう、今まで以上に見やすいライブ配信の準備を進めております。画面越しにはなりますが、熱い応援をよろしくお願いいたします。



当日のレーススケ

ジュール【早慶レガッタ運営委員会】

2020年の大会は中止。2021年は初の無観客での開催となり、ライブ配信を実施。13,000人もの方にオンラインで応援頂きました。2022年も現地応援自粛のため、早慶レガッタの魅力を余すところなく伝える環境を整えようと、早慶レガッタ運営委員会によるクラウドファンディングが実施されています。

↓

<https://www.sppportunity.com/saitama/team/598/detail/>



【早慶レガッタ運営委員会】

▼新入部員募集

早稲田大学漕艇部(ボート部)では、新入部員を募集しています。

ボート競技は、「大学から始めて活躍できるスポーツ」です。

水上で、素晴らしい仲間との4年間が待っています。

選手も、マネージャーも、全員で日本一を目指しましょう!



「エンジの誇りよ、加速しろ。」1897年の「早稲田大学体育部」発足から2022年で125年。スポーツを好み、運動を奨励した創設者・大隈重信が唱えた「人生125歳説」にちなみ、早稲田大学は次の125年を「早稲田スポーツ新世紀」として位置づけ、BEYOND125プロジェクトをスタートさせました。ステークホルダーの喜び(バリュー)を最大化するため、学内外の一体感を醸成し、「早稲田スポーツ」の基盤を強化して、大学スポーツの新たなモデルを作っていきます。